

建設産業委員会会議録（要点筆記）

令和6年2月28日（水）

午後3時10分 開会

場所 委員会室

○芳金秀展委員長

ただいまから建設産業委員会を開会します。

協議第1、閉会中の調査事項についてを行います。

本日の委員会では、委員会報告の素案を作成していますが、委員の意見と提言の部分については、皆さんの意見を伺ってから書いていきたいと思います。まず、資料として、県内視察、県外視察、JAあいち知多の勉強会のレポートを配布していますので、ご一読いただきたいと思います。

しばらく休憩します。

午後3時13分 休憩

午後3時50分 再開

○芳金秀展委員長

会議を再開します。

休憩中に、各自レポートを読んで意見交換もしましたので、改めて意見を聞いていきたいと思えます。

初めに、私から説明します。

まず、結論として、6次産業化の拠点は必要だと考えています。しかし、「売り場」としてではなく、農家支援を目的とした機能としての拠点が必要と考えます。

今は、マルシェを実施していますが、常設ではないので、農家支援の機能のみを常設するという考え方もあると思えます。

○小出義一委員

産直で売れ行きが良いのは水産物で、野菜だけでは厳しいと思えます。売り場や売り方を考えないといけないと思えます。また、誰に、何を、どこで売るのかを考えるような拠点が必要で、例えば、畜産を中心とした商品開発など、未来図を描きながら商品開発を行うべきであると思えます。

○山本裕介委員

これまでの調査で、野菜だけでは難しいことが分かったため、コンセプトの複合化が必要です。また、6次化だけが目的でもいけないと思えます。課題は多いですが、拠点は必要だと考えています。

○竹内功治委員

私も、拠点は必要だと考えています。

コンセプトをもって若者向けに掘り起こしをしっかりと行っていく必要があります。また、建設場所の問題は大きいと思えます。また、半田の産業をテーマに都心で売れるような商品開発ができる拠点は必要だと考えています。

○岩田玲子委員

拠点は必要ですが、野菜単独では収益が上がらないので難しいと思えます。また、整備にお金をかけすぎてもいけないと思えますので、既存施設の隣に作るなどの検討も必要です。

○山田清一委員

半田市で作るものは視察先とは別物として考える必要があります。また、税金を期待しなくても経営が成り立つ必要があり、自治体に関わる産直は閉店しがちということも学びました。

プロモーションや仕掛けは中途半端では失敗することが目に見えているので、十分注意する必要がありますが、拠点は必要だと思うので、例えば、既存施設の利用などは良い意見だと思います

○國弘秀之副委員長

私も、拠点は必要だと思いますが、施設ができることで、どう市民に還元されていくかを明確にする必要があると思います。市民に賛同を得られない施設ではいけないので、他の機能で何を複合化させるのかが重要な要素であると考えます。

○大山仁志市民経済部長

プラットフォームは必要だと思います。

例えば、今実施しているマルシェは、農家同士のつながり作りや、自分の価値を広める手法を学ぶ場としています。

知多半島全体で見ると豊かな地域だと思いますので、それらを集約できれば良いものができると思います。

○大木康敬産業課長

拠点の規模間や定義を明確にする必要があると思います。また、複合化の定義も必要で、メインの機能が何になるのかが分からないとプロモーションもしにくくなると思います。

○芳金秀展委員長

ありがとうございました。

皆様からいただいた意見をもとに、委員長報告を作成し、3月11日の次回の委員会にて提示したいと思います。

次に、協議題2 その他についてを行います。何かある方はいますか。

【「なし」との声あり】

○芳金秀展委員長

無いようなので、以上をもちまして、建設産業委員会を閉会します。

午後4時05分 閉会